

日本語と中国語における可能表現に関する対照研究 ——日本語の潜在可能文と可能の顕在化文に 対応する中国語について——

呉 志 寧

1. はじめに

筆者は日本に来て気になった表現がある。旅行先で、旅館の主人から「よく眠れた？」と聞かれ、なぜ日本語の可能表現を使ったのかと疑問を持ち始めた。この場合、中国語では可能表現を用いず、「睡好了？（よく寝た？）」と言う。「睡好了？」は結果補語を使って結果を表すものであり、可能表現を使わないのである。

このように、両言語の可能表現の使い方に違いが見られる。これについて、本稿では日本語の潜在可能と可能の顕在化（益岡2007）の観点から、中国語の可能表現¹がどこまで対応できるのか、対応できる中国語表現はどんな表現であるかを探ってみたい。

2. 先行研究

渋谷（1993）によれば、「実現系の可能は、『様々な条件によって、ある動作を実現することが可能・不可能である・あった（＝実現する・した：実現しない・しなかった）』ことを表す。例：三日かかってようやくレポートが書けた。潜在系の可能は、『様々な条件によって、ある動作を実現することが、やる（やった）かどうかは別にして、潜在的に可能・不可能である（あった）』ことを表す。例：僕にはたとえ三日かけてもレポートなんか書けない」と述べている。これは実現系可能と潜在系可能の定義をしているだけでなく、両者の区別に言及している。実現系の可能は「実現」に重点を置き、潜在系の可能は「可能」に中心を置いていると考えられる。

次の例を取り上げている。（例文は本文からの引用である）

- ① 太郎は100キロのバーベルが持ち上げられる。（能力可能）
- ② 今日**は**忙しくて、昼御飯が食べられない。（状況可能）
- ③ この魚は食べられる。（許容性、萌芽の所在を対象や道具、場所の特性に求めて語る場合）

可能表現に用いられる形式は、ラレル形及び可能動詞や「～ことができる」などがある。＜可能＞について、尾上（1998b）は次のように定義している。

動作主がその行為をしようという意図を持った場合にその場合に、その行為が実現するだけの許容性、萌芽がその状況の中に存在する。

尾上（1998b）に述べられているとおり、例えば、例①に見られる「太郎が100キロのバーベ

ルを持ち上げようとするれば、その行為が意図どおり実現するだけの許容性がこの状況の中に存在する」という主張が<可能>であり、例②に見られる「昼御飯を食べようと思図してもそれが実現する許容性、萌芽がこの状況の中に存在しない」という主張が<不可能>である。可能表現をめぐっては、行為者の能力を述べる「能力可能」例①と、行為者をとり巻く状況のもたらす可能・不可能を述べる「状況可能」例②の違いが指摘されている。これは、許容性、萌芽の所在を、主に行為者の能力に求めているか、主に行為者の周囲の状況に求めているかの違いだ、ということができる。また、許容性、萌芽の所在を対象物や道具、場所の特性に求めて語る場合が例③であるといえよう。

一方、<意図成就>とは、次のような例が表す意味である。

④ 今朝は、目覚まし時計無しでも朝6時に起きられた。

⑤ 耳を澄ますと、2階の物音がはっきりと聞き分けられた。

これらは、「やろうとしてその行為が実現した」こと、すなわち「意図した行為の意図どおりの実現」を表している。これらの用例には上の規定での<可能>の意味を認めることはできず、<可能>とは別の意味を表すものと認めざるを得ない。

益岡（2007）は「接辞の「られる」が表す可能の意味には大別して、事態生起の潜在的な可能性を表す場合例⑥と例⑦と潜在的な可能性を特定の時空間に顕在化したことを表す場合がある例⑧と述べている。（中国語訳は筆者による）

⑥ あの学生はスペイン語が話せる。（那个学生会说西班牙语。）

⑦ この会議では日本語は使えません。（这个会议不能使用日语。）

⑧ なんとかスペイン語が話せた。（勉强说了西班牙语。）

上の例⑥のように人（あの学生）の能力を表す場合と、例⑦のように生起可能な状況を表す場合である。一方、例⑧のタ形文においては、スペイン語を話すことが実現できたことを表すのに対して、中国語の“说了”は「スペイン語を話す」ことが完了したこと、つまり「話した」という事実を述べている。

馬（2009）によると、日本語実現系可能表現のタ形が中国語可能表現の「能+動詞文」または「動詞+可能補語」形式に訳しにくく、中国語では「実現・完了を表す動態助詞“了”」、「結果補語²」、「趨向補語³」、「様態補語⁴」が用いられると述べている。

また、実現系の日本語可能表現過去形の肯定文は、中国語の実現済みの出来事を表せる「動態助詞“了”」、「結果補語」、「趨向補語」または「様態補語」に訳すのが自然であり、日本語可能表現過去形否定文は、ほとんどの場合、中国語可能表現過去の否定形式「没能+動詞+補語」で表すことができると分析している。

しかし、馬（2009）は「実現系」のタ形だけを対象としており、「潜在系」のタ形には言及していない。日本語可能表現にも「潜在系」のタ形があり、「動態動詞“了”」、「結果補語」、「趨向補語」「様態補語」に訳せるかどうかを考察する必要があると思われる。

姚（2008）では、潜在可能と実現可能の二つの意味類型に基づき、中国語の可能補語「V不C」に対して、「<不可能>も「結果の非実現」という事象の実現性によって同様な意味的分類を行

うことができる。即ち、結果がすでに実現しなかったものとし表しているのであれば、「実現不可能」と見なされるが、結果が実現する可能性のないものとして表れているのであれば、「潜在不可能」と見なされる。」と述べている。

以上の先行研究から中国語の可能補語「V不C」が文脈によって、「結果」と「可能」の両面性があることが分かった。「実現」を表すのは「V不C（了）」を用いて「実現不可能」を表すことができることも分かった。先行研究では否定文「V不C」についての研究が主で、肯定文についての考察が少ない。本稿では、益岡（2007）の用語（可能の顕在化）を用い、潜在可能の顕在化の視点から日中両言語の可能表現がどのように対応しているのかを考察していきたい。

3.1 潜在可能文

分析は、潜在可能文はル形とタ形に分けて、行う。（能力可能と状況可能のみ）。

3.1.1 潜在可能文のル形文

- (1) a 花子はパンが作れる。
b 花子会做面包。
- (2) a 仕事場的人是だれでもそのファックスが利用できる。
b 工作单位的人都可以使用那台传真机。

(1) は花子がパンを作る技術を持っていること（能力可能）、(2) はファックスを使いたいとすれば仕事場の人使えること（状況可能）を表すが、これらはそれぞれ実現の可能性を秘めているという意味で、「事態が実現する」以前の状態を指す。それぞれ中国語の“能”と“会”に対応している。「能力可能」と「状況可能」の「潜在可能」は、内に潜んでいてまだ表に出ていない可能のことである。

3.1.2 潜在可能文のタ形文

タ形を次のようにⅠとⅡに分けて、分析する。

Ⅰ.過去には<潜在可能>を持っていたが、今は失ったということ。

- (3) a 佐藤さんは、あの頃、フランス語が話せた。
b 那个时候，佐藤会说法语。
- (4) a 当時の会議では、フランス語が話せた。
b 当时的会议，是可以说法语的。

(3) はあの頃佐藤さんはフランス語を話す能力を持っていたが、今、何らかの原因で（時間が経ち話す機会がなかったり、話せなくなったり、忘れたり）、佐藤さんはフランス語を話す能

力を失ったということである。(4)は当時会議でフランス語が使える状況であったことを表しているが、今の会議ではフランス語は使えない状態になっているということである。従って、(3)、(4)の可能表現は「潜在可能」を表し、今はその状態でないことを暗示している。中国語の「会说」「可以说」はそれぞれ「動作主の能力」、「会議で使用可能な言語」を示し、「那个时候」「当时」によって、能力可能と状況可能の有無の時期を限定し、今はその状態がないことを表している。

II. 過去において<潜在可能>が実現しなかったということ。

(5) a 太郎は、あの時、プロポーズできた。

b 当时，太郎是可以（能）求婚的。

(6) a 花子は、十分逃げられた。

b(当时) 花子是可以（能）逃跑的。

(5)はあの時、太郎はプロポーズする機会があったのに、しなかったということ、(6)は花子は逃げられるチャンスがあったが、逃げなかったということである。言い換えれば、以下の(5')、(6')になる。

(5') 太郎は、あの時、プロポーズできたのに、しなかった。

(6') 花子は、十分に逃げられたのに、しなかった。

プロポーズできるまたは逃げられる機会があったのに、それをしなかったということである。実現しようと思えば、実現できたのに、その行為をしなかったことを表している。ここで過去のことを述べているが、潜在可能が実現しなかったことで、時期を提示するのみである。

では、潜在可能のタ形文(過去)の否定の場合を用いられるかどうかを見てみる。

(7) a 高校時代、私はまったくサッカーができなかった。『現』

b 高中的时候，我根本不会踢足球。

(8) a 以前彼は英語が話せなかった。『現』

b 以前他不会说英语。

(9) a 図書館館内で、飲食できなかった。『現』

b 在图书馆馆内是不可以饮食的。

(10) a 日本に来たばかりの時、私は納豆が食べられなかった。『現』

b 刚来日本的时候，我不能吃纳豆。

上の4つの例文はいずれも過去において可能の否定形式である。動作・状態が現実実現するかどうかは問題にせず、過去における潜在的に存在する能力可能と状況可能について言及している。過去における「できなかった／～(ら)れなかった」という状態を表している。中国語に訳

すると、能願動詞「能／可以／会」が使われている。

以上、日本語の潜在可能文ル形とタ形に分けて、分析した。ル形は内に潜んでいてまだ表に出ていない可能のことを表しているが、中国語の能願動詞「能・可以・会」に対応している。タ形においては「<潜在可能>を持っていたが、今は失ったということ」と「過去において<潜在可能>が行動に移さないことで実現しなかったということ」になる。前者は中国語の能願動詞「能・可以・会」に、後者は「能・可以」に対応している。つまり中国語の「潜在可能」は、日本語のそれと異なり、時制に関係なく、現在形に相当する表現を用い、副詞で表わされるようである。

3.2 可能の顕在化について

この節は「～コトガデキ(マシ)ル」のタ形と「～(ラ)レル」のタ形を中国語に訳するとき、どんな表現があるのかを考察する。

まず、例文を見てみる。(13) b, (14) b, (15) b の中国語は筆者による)

- (13) a とにかく走るしかない。深いため息のあと、何かすっきりした気分で走ることができた。 『地』
 b 总之只有跑了。深深的叹了一口气后，反而以轻松的心情跑完了。(結果補語)
- (14) a 最後の授業で見た映画も聞き取れた単語がいくつかあったので、嬉しかったです。
 b 最后一次课课堂上看的电影也听懂了几个词，所以很高兴。(結果補語)
- (15) a 紗南は原稿を束ねて数えてみた。「うお～っ、五十枚も書けたよ～っ!やったやったやった!!」と叫んでいた。 『こ』
 b 纱南整了整原稿开始数。她尖叫着“啊写好了50张啊，太好啦太好啦” (結果補語)
- (16) a 僕も感謝しています。おかげで、この園に、働くお母さんを受け入れる覚悟ができました。 『マ』
 b 我也很感谢你，多亏了你，我才做好了心理准备，去接受职业女性的妈妈们。(同上)
- (17) a 今回の試験はよくできたと思う。 『現』
 b 我觉得这次考试考得不错。(様態補語)
- (18) a 彬とちゃんと話せたわ。家族みんなでロンドンでやり直すことにしたの。 『マ』
 b 我和小彬好好谈了。我们决定一家人在伦敦重新开始。(“了”で完了を表す)
- (19) a 「珍しく警察庁に恩を売ることが出来ましたね。」『相棒11』
 b “难得卖了一次人情给警察厅啊。” (同上)
- (20) a 数回よんだだけで、すぐ覚えられた。 『現』
 b 念了几遍就背上来了。(趨向補語)
- (21) a 彼を識別できた。
 b 我认出他来了。(趨向補語) (同上)

以上の対訳から見ると、中国語の「結果補語」、「様態補語」、「了」、「趨向補語」でどのような結果になったかを表している。(13) a について言えば、“跑完”では、“跑”は「走る」という

意味で、“完”は、「走る」という動作の限界の達成、つまり「走り終えている」ということを表す。「跑完」は動作の完了や変化を表す“了”と共に、動作の目的の実現、つまり、「走り終えた」という意味を表わす。それに対する日本語は「走ることができた」となる。

これらの例文は一回性の事柄で「望んだもの或は達成しがたい目的を達成した」といった意味を表している。ところで、「V得C」は常に「可能」を表すと劉（1989）が指摘しているので、例文中の「結果補語」、「程度補語」、「了」、「趨向補語」を「V得C」の可能補語に入れ替えてみた。（*は非文を表す）

- (13) c * 深深的叹了一口气后，反而以轻松的心情跑得完了。
- (14) c * 最后一次课课堂上看的电影也听得懂了几个词，所以很高兴。
- (15) c * 她尖叫着“啊写得好了50张啊，太好啦太好啦”
- (16) c * 我也很感谢你，多亏了你，我才做得好了心理准备，去接受职业女性的妈妈们。
- (17) c * 我觉得这次考试考得得了。
- (18) c * 我和小彬好好谈得了。我们决定一家人在伦敦重新开始。
- (19) c * 难得卖得了一次人情给警察厅啊。
- (20) c * 念了几遍就背得上来了。
- (21) c * 我认得出他来了。

上のc文から見ると、どちらも中国語の可能表現の一つ「V得C」を入れ替えると非文になるようである。この点に関しては、顕在化という視点ではないか。山田（2008）が述べているように、「現代中国語では、動作の状態が可能か不可能を表すのが可能補語であり、動作が完了かどうか、実現されたかどうかを表すのが結果補語である」と言える。(13)～(21)の例文はいずれも一回性的、既に実現できた事柄である。従って、この部分には中国語の可能補語が使えないのであろう。

ここまで、日本語の可能の顕在化に対応できる中国語について見たが、それはすべて肯定の形である。では、日本語の可能の顕在化文は否定の形はどうだろう。まず、いくつかの例文をしてみる。

- (22) a 彼女は悲しくて、どうにか1節歌っただけでもう続けることができなかった。
b 她很难过，才唱了一句就唱不下去了。（可能補語⁵）
- (23) a その字は私は急には書けなかった。
b 这个字我一时写不上来。（可能補語）
- (24) a 部屋の中では会合が行われている。しかし、失敗の原因について、いっさいなぜなのか、だれも説明できなかった。
b 屋里正开着会。然而，对于失败的原因，到底是为什么，谁也说不出。（可能補語）
- (25) a 今日の用事が多くて、本当に時間が捻出できなかった。
b 今天事情太多，实在挤不出时间来。（可能補語）

上の(22) a～の(25) a文は発話時にすでに実現すべき時期が過ぎていることすなわち過去の事態について述べている。(22) b～(25) bの下線部分はいずれも可能補語の「V不C」の形で表している。(22) は、“了”を付けて、「歌い続けられなくなった」ということを表す。劉(1980)は「中国語の可能補語の否定形「V不C」は、動作Vは発生していないあるいは終わっていない時、結果Cが実現できないということが判断することができる」と述べている。従って、(22)～(25)におけるb文の動作(V不C)はすべて終わっていないうちに、結果Cが達成出来ていないことを表している。つまり、「歌う→“唱”」、「書く→“写”」、「説明→“说明”」、「捻出→“挤”」は実現に向けて行動をしたが、目的を達することができなかった。つまり行動を起こしたが、目的を達することができないということは、潜在能力がなかったということを含意しており、可能補語(否定)が使われていると考えられる。

以上を、次の表1にまとめてみた。

表1

		日本語	中国語
潜在可能	ル形	花子はパンが <u>作れる</u> 。(能力可能) 仕事場の人はいだれでもそのファックスが使用できる。(条件可能)	花子 <u>会做</u> 面包。 工作单位的人 <u>都可以使用</u> 那台传真机。
	過去に潜在可能を持っていたが、今は失った。	佐藤さんは、あの頃、フランス語が <u>話せた</u> 。 当時の会議では、フランス語が <u>話せた</u> 。	那个时候，佐藤 <u>会说法语</u> 。 当时的会议， <u>可以说法语</u> 。
	潜在可能が実現しなかった。	太郎は、あの時、 <u>プロポーズできた</u> 。 (「しなかった」または「プロポーズできなかった」) 花子は、十分 <u>逃げられた</u> 。(「逃げなかった」または「逃げられなかった」)	当时，太郎本来是 <u>可以求婚的</u> (但是他没做) 花子是 <u>完全可以逃跑的</u> ，(但是她没逃)
可能の顕在化	一回的な出来事(夕形) 最後の授業で見た映画も聞き取れた <u>単語</u> がいくつかあったので、嬉しかったです。 今回の試験は <u>よくできた</u> と思う。 数回よんだだけで、 <u>すぐ覚えられた</u> 。 珍しく警察庁に <u>恩を売ることが出来まし</u> たね。	最后一次课课堂上看的电影也听懂了几个词，所以很高兴。 我觉得这次考试 <u>考得不错</u> 。 念了几遍就 <u>背上来</u> 了。 难得 <u>卖了一次人情</u> 给警察厅啊。	

以上の分析から、日本語の潜在可能と可能の顕在化に対して、中国語の可能表現で対応するこ

とができるものもあるし、できないものもあり、次の表2のようになる。

表2

	日本語		中国語
潜在可能	ル形	能力可能と状況可能は潜在的な可能である	“能” “可以” “会” と対応する
	タ形	当時は、その能力や状況があったが、今はその能力や状況が失われていること。	“会”，“能”
		動作・状態が現実実現するかどうかは問題にせず、過去における潜在的に存在する能力可能と状況可能である。	“可以” “能”
可能の顕在化	一回的な出来事： 「期待されていない出来事」あるいは「困難を乗り越え、期待した結果がやっと実現された出来事」		可能で対応できない。「結果補語」「様態補語」，「趨向補語」，“了” で完成した事を表す。

4. まとめ

以上から、日本語の潜在可能文と可能の顕在化の二つのグループに対して、中国語の可能表現で対応することができる場合とできない場合があり、以上から、次の2点が明らかになった。

i. 潜在可能文のル形には中国語の可能表現が対応できるが、タ形は二つグループに分かれ、すべて中国語の可能表現が使えるというわけではなく、否定つまり未実現の場合のみ用いることができ、一部は「能/会」で、一部は「能/可以」が担う。

ii. 日本語の可能の顕在化文は中国語の可能表現で対応できず、「結果補語」，「様態補語」，「趨向補語」，“了” を用いることになり、それぞれの使用場面は文脈による。

日本語においては、潜在可能・潜在可能の顕在化（ル形タ形/肯否）に関わらず可能形を用いることができるが、中国語の場合は、潜在可能についてのみ可能表現が使用できる。中国語では、潜在可能の顕在化については可能表現は使えず動作が完了したという結果を述べることになる。今回の考察は主に日本語可能表現を中国語でどう表現するかという対照による分析を行ったが、今後中国語可能表現は日本語ではどう表現するかの考察が必要があると考える。

参考文献

- 渋谷勝己 (1993) 「日本語可能表現の諸相と発展」, 『大阪大学文学部紀要』第33巻 第1分冊。
 尾上圭介 (1998b) 「文法を考える6 出来文(2)」 『日本語学』17巻10号。
 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探求』くろしお出版。
 山田留里子 (2008) 「可能補語一何を教えるか」 『日本語と中国語の可能表現』。
 楊明 (2006) 「中国語と日本語における実現表現の文法的な形」 『千葉大学社会文化科学研究12』。
 馬俊榮 (2009) 「日本語可能表現のタ形用法に対応する中国語表現をめぐって」 『日中言語対照論集』11, P. 108~121, 白帝社。
 姚艷玲 (2008) 「<不可能>の言語化に関する日中両語の対照研究」 『日本語と中国語の可能表現』 P.88~111, 白帝社。
 劉月華 (1980) 「可能補語用法研究」 『中国語文』1980-4 新華書店。
 朱徳熙 (1984) 『語法講義』, 商務印書館。
 房玉清 (1992) 『実用漢語語法』北京語言大学出版社。
 張威 (1998) 『結果可能表現の研究』くろしお出版。

例文出典

- 『日本語文型辞典』2011, グループ・ジャマシイ, くろしお出版。
 『現代中国語用法辞典』1983, 牛島徳次, 株式会社現代出版(略『現』)。
 『初恋の彼女』(尚文産商堂2009), 『異なりアクセスタイトル: 閲読日本: 愛在時光里流転』2012, 肖厚国, 大连理工大学出版社。
 『红粉』(蘇童2004): 『紅おしろい』(竹内良雄 訳), 『コレクション中国同時代小説』2012, 東京勉誠出版
 『地平線への旅』1989, 風間深志(著), 文芸春秋(略『地』)。
 『マザー・ゲーム~彼女たちの階級~』最終回, TBSテレビ(略『マ』)。
 『こどものおもちゃ』1997, 高橋 良輔(著), 集英社(略『こ』)。

注

1. 中国語の可能表現は中国語の可能表現は基本的に二つの形式があるとされている。一つは「能」・「可以」・「会」のような助動詞を用いる形式であり、もう一つは動詞と補語成分との間に「得」または「不」を挿入する「可能補語」である。
2. 結果補語は、述語動詞(または形容詞)の後に置かれて、動作や変化の結果を表す。
3. 趨向補語は、動詞の後に置かれて動作や行為の方向性を表す。
4. 様態補語は、「動詞+得+補語」と「形容詞+得+補語」という2つのタイプに分けられ、前者は動作の結果や状態を表し、後者は性質や状態の程度を表す。
5. 可能補語のほとんどは、結果補語と趨向補語をベースにしてできたものである。動詞と結果補語・方向補語の間に“得”を入れる形で可能補語に変えられる。否定の場合は“不”に替える。